

選抜区分： 学校推薦型(公募制)・特別選抜(社会人)第1期・特別選抜(帰国子女)

科目： 小論文

学部： 看護学部

【設問1】

若者層の自国社会の問題の回答として、日本は「よい政治が行なわれていない」が42.2%と最も高く、他の4カ国より13~26%高い。「人種によって差別がある」はアメリカが48.9%、フランスが44.9%、ドイツが38.2%で最も高いのに対し、日本は14.5%と5か国中最も低い。スウェーデンでは、「信じる宗教によって差別がある」が32.1%と最も高いが、日本は7.9%と、これも5か国中最も低い。また、日本の令和5年度と平成30年度を比較すると、令和5年度の方が、「よい政治が行なわれていない」は9.3%、「若者の意見が反映されていない」は8.3%高くなっている。

【設問2】

日本は、「よい政治が行なわれていない」、「若者の意見が反映されていない」が他の4カ国より高く、さらに、令和5年度は平成30年度より約10%上昇していた。この2つの項目が最も低いスウェーデンは、医療費や教育費などへの国からの保護が充実していると「総合歴史」で学んだ。若者は国からの保護を実感し、積極的に政治に参加することで、意見が反映されているのではないだろうか。それに対し日本では、国からの教育費への補助は十分ではないため、親の負担が大きく、私たちの進路にも影響している。日本の政治のありかたが、教育費の問題や令和5年度の上昇に反映されていると考える。しかし、私達が政治への理解を深めて選挙で投票し、反映されるような意見を考えることも必要である。次に、「人種によって差別がある」、「信じる宗教によって差別がある」で日本が最も低いのは、島国のため人種や宗教の多様性が少ないためと考える。だが、これからグローバル化が進み、様々な人々と接する機会が増えると、他の人種や宗教への差別が生じる可能性もある。同じ人間として思いやりを持って理解しようと努め、ともに生きようとする姿勢が、今後の私達に求められる。